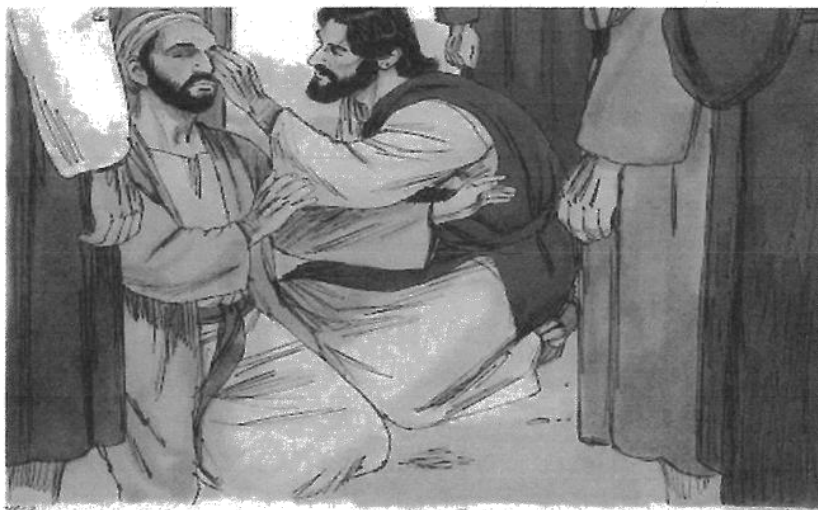


## <主の御手が目を開く>

マルコ8：22～26



イエス・キリストと弟子達の旅路

デカポリス地方 → ダルマヌタ地方(マグダラ) → ベッサイダ →  
ピリポカイザリヤ地方

聖書の中にも旅する人たちが数多く登場

アブラハム：生まれ故郷を出て神が示す地へ行きなさいと告げられて出発

モーセ：エジプトから民を率いたモーセは、約束の地を目指した

パウロ：福音を伝えるために3度の宣教旅行へ

- ◆旅の目的ははっきりしていたが、先に何があるか、予測不能な旅。地図もない、ガイドもない、自分の足を踏み入れて自分で進んでいく以外方法がない旅。
- ◆旅の途中で個人的に神と出会っている。その神との出会いで、今までの自分自身が取り扱われる。

<ヤコブ>

長子の特権を奪い取って兄に恨まれて、伯父ラバンのもとへ逃げる途中、孤独な旅の中で、初めて個人的に神様と出会い、神を礼拝する。人を押しつける狡猾な面を持って生まれたヤコブが、神との出会いで、彼の人生に目覚めを与えた。

見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。  
わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。 創世記 28：15

この約束がこの後の、ヤコブの人生の力、また支えとなった。

12弟子は、旅から旅の生活に苦痛を感じることはなかったのだろうか？

自分のプランではなく、自分のペースで進めることができない。

次はどこに行って、何をするかという予告がない。

ベツサイダ・・・「漁師の家」という意味。ガリラヤ湖北部にある町。

彼らはエツサイダに着いた。すると人々が盲人を連れて来て、彼にさわってくださるよう、

イエスに願った。【22節】

この村の人ではなかった。

奇跡を見たい、しるしを求めた人たちに引っ張り出された？！

「神に望みを持たない人」にイエス様が触れた。1回、2回・・・

イエスは盲人の手を取って村の外に連れて行かれた。そしてその両目につばきをつけ、両手を彼に当てて、「何か見えるか」と聞かれた。すると彼は、見えるようになって、「人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます」と言った。それから、イエスはもう一度彼の両目に両手を当てられた。そして、彼が見つめていると、すっかり直り、すべてのものがはっきり見えるようになった。

【23～25節】

イエス様は、弱り果てていたこの人の信仰に、何度も呼びかけ続けた。

「見えるか。見えるか。」